

Dropbox Business の セキュリティと管理機能

Dropbox は、セキュリティ、コンプライアンス、プライバシーを重視して構築されています。ユーザーの皆様のデータが安全に保護されるよう、複数の保護レイヤを備えた安全な分散型インフラストラクチャを採用しています。また、管理者は管理機能と可視性設定機能を利用して、ユーザー情報のセキュリティを効率的に管理できます。



セキュリティ

- セキュリティとパフォーマンス、信頼性を向上させる分散型インフラストラクチャ
- アプリケーション、ネットワーク、その他のセキュリティ脆弱性の定期検査 (社内と第三者機関)
- データの保管: ファイルは 4 MB ごとに分けられたブロックとして保管され、各ブロックはハッシュ化ならびに暗号化 (256 ビット AES) されます
- 転送中のデータ: SSL/TLS (128 ビット以上の AES 暗号化)、証明書ピンニング、PFS (Perfect Forward Secrecy)
- ポリシー、手順、技術制御、トレーニング、監査、リスク評価などを含む情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)

管理機能と可視性設定機能

アイデンティティとアクセス管理

- Active Directory との統合
- シングル サインオン (SSO)
- 2 段階認証

共有とファイル管理

- 包括的な共有権限設定
- 読み取り専用権限設定
- 共有リンクのパスワードと有効期限設定

包括的な監査ログ

- アカウントのアクティビティ:
ログイン履歴、認証履歴、変更履歴
- 共有: フォルダ、ファイル、イベント
- リンク: デバイスとアプリ

管理者の操作

- デバイスとアプリのリンク解除
- 遠隔削除
- アカウント移行
- 管理者役割の階層化

Dropbox プラットフォームを拡張したことにより、Dropbox Business を企業の中核的な IT プロセスにシームレスに統合していただけるようになっただけでなく、カスタムワークフローもご利用いただけるようになりました。

Dropbox Business API や Dropbox のパートナー企業をご利用いただくことで、会社で SIEM、DLP、DRM、SSO、e-Discovery などを有効化できます。

コンプライアンス

ユーザーの皆様に安心してご利用いただけるように、Dropbox Business では独立した第三者監査機関に依頼して Dropbox のセキュリティ対策を検証し、世界で広く認められている ISO 27001 や ISO 27018、SOC 1、SOC 2、SOC 3、EU セーフハーバー フレームワークなどのセキュリティ規格や規制に照らし合わせて Dropbox のシステムや管理機能を検査しています。

バランス: セキュリティと導入

セキュリティと管理が最も重要とはいえ、ユーザーが IT ソリューションを導入していなければ効果はありません。セキュリティとユーザビリティ双方の向上に積極的に取り組んだ結果、企業において Dropbox Business は高い導入率および移行率を誇っています。社員が揃って利用することで、企業は社内情報をさらに集中管理できるのです。

